地域研究

Small is

Beautiful

明るい町村シリーズ 1 美瑛町(北海道)

日本で最も美しい村

清水希容子

一般財団法人日本経済研究所 地域未来研究センター 研究主幹

丘のまち・美瑛。

北海道の真ん中の上川盆地、大雪山十勝岳連峰の 裾野に広がる。

「美瑛」は、アイヌ語の「ピイエ」(油ぎった川、 濁った川の意味)を語源とし、開拓者が「ビエイ」 となまって読み、"美しく、明朗で王者の如し"と 意味をこめて"美瑛"の字があてられた。

旭川と富良野をつなぐ国道の高台からのパノラマは、でこぼこの丘がスポンジの裏のようにうねうねと続き、その先に屛風のように雄大な大雪山と十勝岳がそびえる。

ご当地プレート (原付)

美瑛町 (北海道)

人口: 10,956人 (2011年) 面積: 677km (函館市とほぼ同じ)

1世帯当たり課税所得:242万円 (2009年)

財政力指数: 0.22 (2008年度)

傾斜した丘に近づくと、初夏は、果てしない青空と、白・紫・紅・黄色のじゃがいもやビートなどの花や連作作物の緑が広がり、一面は鮮やかなパッチワークの布のよう。冬は、白一色の神秘的な世界に描かれる曲線に、一本立ちの白樺やポプラがぽつんと立ち、天から舞い散る雪が宝石のようにキラキラひかる。

この丘はどのようにできたのか……。

明治時代に開拓が始まり、隣接する旭川市に置かれた旧日本陸軍の演習地として使われていた。戦後の緊急開拓によって入植が進み、木を伐り、土地を耕し畑とした。冬の寒さは厳しく、傾斜地での農作業はトラクターがひっくり返ることもあった。脈々とした時間を経て、人々の"生活の営み"によってつくられた丘である。単なる荒々しい自然風景や、短期的な計画によりつくられたものではない。

しかし、住人にとっては、やっかいなものだった。 農作業を行いやすくするため、丘を削りまわり を埋める均平化事業が行われていた。

1972年、写真家の前田真三氏が、そのようなことは露知らず、旅行中、偶然に美瑛の丘と出会い感動する。ヨーロッパの田園風景を思わせ、日本にもこんなところがあるのかと心打たれた。

前田氏の撮った「麦秋鮮烈」などの写真は注目を 集め、観光地が白金温泉と十勝岳スキー場くらいし かなかった当地に、10倍以上の観光客が押し寄せた。

地元では見慣れた普通に思う風景が、写真で見る とたしかにきれいである。訪れる人々はみな感動し て帰っていく。均平化事業の話は自然となくなって いった。

「美瑛の丘」は全国区となり、現在も、写真家や

町のあり様について、由布院温泉の中谷健太郎氏は語りました。 「小さいから、身近に暖かい関係が生まれる。」 「小さいから、個性的な価値を生み出せる。」 「小さいから、大きな資本を必要としない。」

"Small is Beautiful" ~ 明るい町村 ~ 新シリーズの始まりです。





画家を魅了し、観光客が前田氏のギャラリー「拓真 館」や「西美の杜美術館」を訪れ、移住者もいる。

2005年、美瑛町は、人々の生活の営みによって作 り上げられた風景、長い歴史に培われた文化、祭 が、市町村合併により失われることを危惧する町村 と連携し、NPO 法人「日本で最も美しい村」連合 を立ち上げた。

加盟村では、町が年間住民一人当たり25円換算の 負担金を支出し、カルビーや伊那食品などの企業や 個人サポーターと、"生活の営みにより作られた景 観""豊かな自然や自然を活かした町村の環境""昔 ながらの祭りや郷土文化・建築物"を守る活動を 行っている。フランスから始まった世界的な運動 で、イタリア、ベルギー、カナダ、韓国にも広がっ ている。

「美しい」とは、色や形だけではない。そこに住 む人々がそう感じ、守ろうとする「心」そのもので ある。

「日本で最も美しい村 |



「日本で最も美しい村」連合加盟村(2012年3月現在) *加盟順